

2021年度活動報告

はじめに

2021年度をもって引退馬協会は設立から12期を終了しました。支えてくださっている会員の皆様、ご寄付やボランティアを通じてご支援いただいている皆様に、心より御礼申し上げます。

2020年度から続いた新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、2021年度も馬とのふれあいイベントやセミナーなども軒並み実施することができませんでした。預託先でも感染拡大防止の観点から訪問を受け入れることができなくなるケースがあり、会員のみなさまもなかなか馬と接したり馬について知る機会を設けることができず、残念な思いをされたことと存じます。

一方、ナイスネイチャ・バースデードネーションはアプリゲームの「ウマ娘」人気と相まって今年もたくさんの方にご参加いただきました。新しいフォスターホースの受け入れが12頭あった一方で、たくさんの別れもあった激動の一年でした。

各事業に関する詳細を以下に報告いたします。

1)馬と人のふれあい事業

この事業は、フォスターホース(以下、FHと記載)たちの体験騎乗や、手入れ、ツアーなどでのふれあいを通じて馬の温もりに接し、馬という動物についてより知っていただき、親しんでいただくための、いわば引退馬協会の基幹となる活動のひとつです。

- ① 「FHと過ごす日」の開催
- ② 乗り方指導・馬の接し方講習会
- ③ 専門家を招いての指導

上記①～③は「FHと過ごす日」の開催に合わせて、馬の専門家を招いて馬への理解を深める活動を行っていますが、コロナ禍のため今年は「FHと過ごす日」を開催することができませんでした。少人数のご家族やグループでは年間で80名程度の方が、馬たちに会いにきてくれました。イベントの実施はできませんでしたが、乗馬倶楽部イグレットの団体会費は経費として発生しています。

- ④ 「再就職支援プログラム」の実施

再就職支援プログラムは、引退した競走馬に対し、人と穏やかに暮らすための馴致調教を行うプログラムです。人間に引かれてゆっくり歩くことができる練習や、乗馬としての常歩・速歩・駈歩を指示通りにできる基礎的な運動などを通しておおよその馬の性格や能力を把握し、それぞれの馬に適した場所へ譲渡することを目指し、譲渡する馬と譲渡先とのミスマッチを防ぐために大変有効なプログラムと考え、継続して行っています。

こちらはコロナ禍でも事業を実施し、5頭が新規に参加、7頭が卒業していきました。また、残念ながら、

第 10 期生のレネレイドが疝痛のため亡くなったと残念な報告がありました。また、期が替わり、6 月 5 日にプログラム参加のために入厩したタッチスプリントは、移動した当日の夕方疝痛を発症、闘病の末 6 月 9 日に亡くなっています。亡くなった馬たちの冥福をお祈り申し上げます。

	馬名	プログラム期間	調教施設	譲渡先(繋養先)
19 期生	チャツミムスメ	2019/4/26 -2022/1/24	北海道 エクワインファーム 千葉県 乗馬倶楽部イグレット	ホースランド安曇野 (長野県)
22 期生	ゴットフリート	2019/10/19-2022/4/27	群馬県 かなやま森林馬事公苑	ゴットフリートの会 (マーサファーム/千葉県)
24 期生	マイネルラブティス	2020/2/1-2021/12/1	北海道 早来エクワインファーム	個人 (早来エクワインファーム北海道)
25 期生	トリップオブラブ	2020/8/5-継続中	群馬県 かなやま森林馬事公苑 福島県 厩舎みちくさ	未定
26 期生	シャイニープリンス	2020/10/6-2021/12/31	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	NPO法人コーチトラスト (乗馬倶楽部イグレット/千葉県)
27 期生	ヴァーゲンザイル	2020/12/15-継続中	福島県 厩舎みちくさ	未定
29 期生	タッチワールド	2021/6/24-2022/1/21	広島県 西条農業高校	広島県 西条農業高校
30 期生	ヴィットリオドーロ	2021/11/13-2022/3/30	群馬県 乗馬クラブ アリサ	群馬県 乗馬クラブ アリサ
31 期生	ダブルスター	2021/11/13-2022/6/7	北海道 早来エクワインファーム	山梨県 個人
32 期生	タカラシップ	2022/4/1-継続中	千葉県 乗馬倶楽部イグレット	未定
33 期生	メイジン	2022/5/3-継続中	北海道 早来エクワインファーム	未定
34 期生	タッチスプリント	2022/6/5-6/9(永眠)	佐賀県 佐賀県馬術連盟	—

【2021 年度卒業馬】



マイネルラブティス



タッチワールド



チャツミムスメ



ヴィットリオドーロ



シャイニープリンス



ダブルスター



ゴットフリート

コロナ禍や馬体の問題からプログラム期間が長期化していた 19 期生チャツミムスメ、22 期生ゴットフリート、24 期生マイネルラブティスが卒業しました。チャツミムスメは競技会で優勝したとの嬉しい報告が届けました。ゴットフリートは、競走馬時代の出資者の方が引き取りサポートホース団体「ゴットフリートの会」を設立、ふれあいホースとしてかわいがられています。マイネルラブティスは蹄の状態もよくなり、馬場馬として成長しつつあるようです。

25 期生のトリップオブラブは、乗馬としては物見は多少あるものの初級者でも乗れる馬ですが、競走馬時代、引退後の待機時代の駆虫ができておらず、プログラムに入って間もなく疝痛を発症、複数の種類の大量の寄生虫により命の危機がありました。寄生虫により腸壁にかなりのダメージを受けており、気を付けて管理はしていただいているものの疝痛を繰り返していました。日々の投薬も欠かせず、獣医療費がかかるため譲渡は難しいかもしれないと考えていたところ、4月に重い疝痛を発症しました。懸命な看護をしていただき回復しましたが、放牧中心・粗飼料中心の飼養を方針としている厩舎みちくさに移動しました。新しい環境にも慣れました。投薬量を減らし、最終的になくせるかどうかにより譲渡可能かどうかを判断する必要があります。

26 期生以降はプログラムに入る前の馬体診断や治療・療養が功を奏し、順調に調教が進んでいます。入厩前の馬体検査の費用については引退馬協会が負担し、治療は今のところJRAの奨励金を利用した医療費助成でほとんどの方が賄えています。一頭あたりの医療費助成は 10 万円とし、去勢手術代は別枠で助成しています。トリップオブラブが入厩後、寄生虫により度重なる疝痛を起こしていることから、寄生虫検査と駆虫代(回数上限あり)も医療費助成の対象となりました。2021 年度中に行った入厩前の医療費助成は、75,449 円でした。医療費助成は、プログラム入厩後に助成しています。

譲渡が成立した 26 期生のシャイニープリンスは NPO 法人コーチトラストの研究馬兼乗馬として講習会で活躍中です。26 期生タッチワールドは、広島県立広島農業高校馬術部へ譲渡し、生徒のみなさんにかわいがられています。第 29 期生のヴィットリオドーロは乗馬クラブアリスへ譲渡が成立、中山先生の調教により馬場馬として日々成長をし、レッスンにもデビューしています。第 30 期生のダブルスターは元乗馬インストラクターの方が馬との生活のために建てた家の敷地に馬房とパドックをつくり、地元の「馬のための林道」での外乗をするために譲渡しました。

27 期生のヴァーゲンザイルは、プログラム開始時はバランスを崩してきちんと立つことができませんでした

が、レントゲンを撮りつつ装蹄をし、今では見違える立ち方をするようになりました。体もとても柔らかく、乗り心地も大変良いそうです。譲渡候補を絞り譲渡先を見つける予定です。32期生タカラシップ、33期生のメイジンとも順調です。

2022年度に入ってからではありますが、6月5日に入厩した34期生のタッチスプリントは入厩した日に疝痛を発症、闘病の末永眠しました。何も始まらないままに亡くなってしまったのは無念ではありますが、ケガをして引退後引き取った方が牧場での休養という、幸せな時間を過ごさせてくれたことは、タッチスプリントにとっては何よりも幸せな時間だったと思います。ご冥福をお祈りいたします。

- ⑤ 「引退馬の眠る丘」プロジェクト準備
実施しませんでした。

2)啓発事業

年4回(季刊)発行している会報「RHA 通信」の他に、会の知名度を広め、引退馬についての関心を高めるため、インターネットでの情報発信や、写真展の開催など、さまざまな形での啓発活動を行っています。

① 引退馬に関する情報発信・各種広報活動

フォスターホースの近況や再就職支援プログラムの調教の様子、預託先情報の掲載などのホームページやSNSで発信しました。今年はコロナ禍で預託先の訪問に制限がかかってしまった為、電話やメールでの取材以外については、コロナウイルスの感染拡大の観点から預託先への入場時には必ずマスクを着用し、消毒をする等、防疫に十分注意して行いました。

② 会報(RHA 通信)・活動報告書の発行と送付(印刷版・PDF版)

正会員(一般会員・FP会員)、後援会員と、賛同会員のうち会報購読を希望された方に、7月、12月、2月、5月(発送は6月)の年4回、「RHA 通信」を郵送、WEB閲覧を希望した方へはメールで配信しました。

③ 啓発活動としての写真展等

ホースメッセ2022(1月27～30日) 横浜赤レンガ倉庫に参加

情報展示、物販、講習会など、馬に関する情報が集まる一大イベント「ホースメッセ」(主催/ホースメッセ実行委員会)に参加しました。コロナの第6波で「まんえん防止等重点措置」が開催の5日前に行われ、マスクや消毒等基本的な対策のほか、大声を出さない等、神奈川県と横浜市の感染防止対策ガイドラインを遵守しての開催となりました。



ブースの展示風景



小島友実氏



平林健一氏
(Creem Pan)



満員の会場



沼田代表理事

引退馬協会では、今回は物販なしで展示とトークショーを行いました。ブースは引退馬協会の概要とともに「引退馬預託施設 INFO」「再就職支援プログラム」を中心に、パネルと写真、情報ファイルなどを展示。大変好評でたくさんの方にブースを訪問していただきました。

トークショーは映像作家の平林健一さん、司会に競馬キャスターの小島友実さんを招き、平林さんが撮影されたバンダムテスコのドキュメンタリーなどを上映。『映像から見る引退馬の“今”と“未来” — 盲目の馬・バンダムテスコ —』をテーマに語りました。昨年バンダムテスコをテーマに考えていましたが、奇しくも年明けに急逝してしまいました。改めてたくさんの方にテスコの生きる証を知っていただくことができたのは大きな成果だったと考えます。

④ 馬に対する知識を深めるセミナーの実施

開催できませんでした。

⑤ 馬とのふれあいが人にもたらす効果を検証するイベントの実施

実施できませんでした。

⑥ ロゴマーク入りオリジナルグッズの制作販売

イベントの開催見送りで今年は直接販売をする機会がなく、オリジナルグッズの販売を全面的にホースファクトリーへ委託して行いました。特にナイスネイチャ、メイショウドトウ、タイキシャトルなどの人気馬のクリアファイルの売れ行きがよく、併せてトートバッグなども一緒に購入してくださる方もいらして、売上げは大変好調でした。今後もホースファクトリーと連携しながら新商品を開発していく予定です。

⑦ ナイスネイチャ・バースデードネーション

今年も2022年4月16日のナイスネイチャの誕生日から5月15日までの1ヶ月間、「ナイスネイチャ・34歳のバースデードネーション」として寄付キャンペーンを実施しました。「バースデードネ

ーション」とは、お誕生日プレゼントをもらう代わりに応援する団体への寄付をお願いするファンディングの手法のひとつで、近年の SNS の普及によって広まってきました。

6 回目となる今年は、功労繁殖牝馬への支援の呼びかけですが、さらなる支援枠の拡大の検討のために会員のみなさんにご意見を募集したところ、もっと無名な馬たちも助けてほしいのご意見を複数いただき、まだ前年のドネーションの受け入れ可能頭数が 10 頭あることから、用途を変えてドネーションによる支援の対象を再就職支援プログラムとし、これまでの活動でほとんどの競走馬が体に痛みを抱えて引退してきているという実体験から、治療・療養・リハビリをする環境を提供するための助成と再就職支援プログラムへのご支援を募りました。

昨年の当初の目標よりは高い 850 万円という目標を立てたものの、昨年集まった寄付までは集まることはないと考えていましたが、始まってみたら目標は 2 日で達成、ストレッチゴールも早々に達し、最終的には 17,154 人の方から 54,109,149 円ものご支援をいただくことができました。キャンペーン期間は終了しましたが、継続してご寄付してくださる方いるので、最終的な入金は次回のドネーション前まで増えた分は今年度のドネーションの目的の為に使わせていただきます。

寄付が増えていることの背景とし、古くから引退馬支援に参加してきた方に加え、ウマ娘プロジェクトの影響も大きく、そこから馬が好きになった方たちが今年も参加してくださっています。この流れが一時的ブームではなく、定着させるために引退馬協会としてできることは、いただいたご寄付を誠実に使い、報告していくことが責務と考えています。

⑧ 牧場見学マナー啓発活動

コロナ禍で制限されていたフォスターホースの見学も、第 6 波の収束を機に再開されています。まずはホームページ等で見学に際しての情報発信をしています。一般に向けてはフォスターホースの預託先に隣接する牧場の敷地に入ってしまう方の対策として看板を 2022 年度から引退馬協会が負担して設置していきます。

3) 引退馬ネット事業

引退馬ネット事業は、引退馬協会による対外支援活動です。引退馬の引き取りに関する単発的な相談のほか、サポートホース団体設立などの長期的なサポートを行っています。

① 馬の引取り相談・サポート

相談してくる方に、引き取り、預託先の紹介や繋養方法などについて適宜アドバイスしています。今後馬の引き取りをされる方については：

- ・早期のコンタクト
- ・預託先の目処をつける(入厩希望時期が決まっていなくても事前に相談しておく)
- ・資金準備

馬運代の準備

保証金や入厩料(賃貸契約の敷金・礼金にあたるもの)…不要の場合もある

2ヵ月程度の預託料の準備

馬代金の準備

馬が厩舎を出てから探す、引き取ると想定していたよりかなりの金額がかかってしまいますので、早期からのコンタクトやツテ探しをすることが大事です。基本、厩舎を出てしまってからでは、行先は教えてもらえません。引退時に厩舎または馬主から声をかけてもらえる体制を築くようにしてください。また、所有者から譲渡を受ける際の馬代金は必要となるものと考えてください。

② 引退馬繋養団体の引取り後の相談・運営サポート

2021年度は、二団体が新たに設立が承認され、既存団体に一頭が追加となりました。

ゴットフリースの会(サポートホース:ゴットフリース)



再就職支援プログラムで譲渡先を探していたものの、体の痛みが出やすいことから乗馬の道を断念。ゴットフリースの元一口馬主の方が引き取り、「ゴットフリースの会」を設立しました。千葉県御宿町のマーサファームにて、新たな馬生を歩み始めています。

公式 HP



西条農業高校同窓会馬術部功労馬を応援する会(サポートホース:マック)



高校の馬術部の馬たちを最後まで自分たちの手で世話がしたいという画期的な理由から設立された団体です。西条農業高校は、広島県立の高校で、学校としての資金集めが困難なため、同窓会に運営の手助けをしてもらうことで実現しました。卒業生であるか否かに関係なく、広く支援を呼びかけています。まずは最高齢の馬術部の功労馬マックをサポートホースとしてスタートし、会員が増えれば順次頭数を増やしていく予定です。

公式 HP



渡辺牧場里親会新サポートホース (サポートホース:キゼンラック)

渡辺牧場里親会に新しいサポートホースとして、乗馬を引退して牧場に戻っていたキゼンラックが加わりました。セントネイチャー一頭から始まった会も、プリティプリン、(故)キタノダイマジン、ケイウン グリッター、ヴィエントバイラーの計6頭となりました。

公式 HP



2021年度 サポートホースの異動

サポートホース	サポート対象	繋養先及び異動
グランデラバー	グランデラバーの会	Calm days farm へ移動

サポートホース団体を運営する団体にもJRAの奨励金を還元するべく、サポートホースの医療費助成が始まりました。各団体年額5万円を上限として、繋養中のサポートホースの傷病や怪我の治療にかかった獣医療費を助成していましたが、医療費のかかる馬とかからない馬が分かれていて、予算があることから、2022年1月からの一年は、一頭の上限を一頭5万円から、10万円に引き上げ、また、これまで助成対象から除外していたJRAの奨励金の受給団体所有のサポートホースも、医療費助成の対象としました。助成対象として、馬が若いときからのケアが晩年に大きく影響する整歯も対象とし、日頃からの歯のケアの定着を目指しています。2021年度中のサポートホースへの医療費助成は、364,742円でした。

なお、今後、サポートホースの医療費助成は、JRA奨励金の支給額の減額や終了により、将来的に減額や廃止になる場合があります。

4) フォスターペアレント(FP)事業

FHが終生穏やかに幸せに元気に暮らせるように支援していただく里親＝フォスターペアレント(以下、FP)制度によって、FHたちを安定していく繋養する、引退馬協会の基幹事業です。里親制度の運営、集いの場の提供、FHの預託など、FHに関わる事業はすべてFP事業となります。

① 引退馬の繋養を支える里親制度の運営と集いの場の提供

里親制度ではナイスネイチャバースデードネーションの時期に多くの方からのご入会がありました。特にネイチャ、ドトウ、シャトルの3頭に集中し、口数が満口を大きく上回ってしまったことから、他のFHへのご支援へ繋がるように3頭の募集は一旦受付を停止しています。

ナイスネイチャバースデードネーションで受け入れた馬たちへのFP会員の申込みも順調に増えており、該当する12頭(うち1頭死亡)への支援も順調に増え、5月末現在の金額ベースの支援は、月額956,000円となりました。

会員数が大きく増えたことで、ポートレートも、これまでの台紙と生写真を送る形式から、保管やフォトスタンドの利用を考え、ミニアルバムと、台紙のない状態の生写真の送付に形式を変更しました。

② FHの繋養

【2021 度年中に受け入れた新規フォスターホース】

馬名	年齢	繋養地	繋養先
マンダララ	25 歳	北海道日高町	スウィングフィールド牧場
サマーナイトシティ	23 歳	鹿児島県湧水町	NPO法人ホーストラスト
ディープスカイ	18 歳	北海道日高町	ひだか・ホース・フレンズ
ノボキッス	19 歳	北海道日高町	サンバマウンテンファーム
タイキポーラ	26 歳	青森県十和田市	小笠原富三郎牧場
アサヒライジング(故)	18 歳	鹿児島県湧水町	NPO法人ホーストラスト
オースミコスモ	23 歳	北海道浦河町	Calm days farm
エスワンスペクター	21 歳	北海道浦河町	Calm days farm
バトルブラン	17 歳	北海道日高町	MTHケイムズ
クレスコランド	13 歳	千葉県香取市	乗馬倶楽部イグレット
メイショウサムソン	19 歳	北海道日高町	ひだか・ホース・フレンズ
ダノンシャーク	14 歳	北海道日高町	MTHケイムズ



マンダララ



サマーナイトシティ



ディープスカイ



ノボキッス



タイキポーラ



アサヒライジング



オースミコスモ



エスワンスペクター



バトルブラン



クレスコランド



メイショウサムソン



ダノンシャーク

2021年度は、ナイスネイチャ・33歳のバースデードネーションで12頭を新たに迎えました。受け入れた最初の12頭は、すべて正式な預託先へと移動しました。残念ながら、ホーストラストに移動したアサヒライジングは、移動後放牧地での事故で脚を滑らせ骨折、安楽死となりました。ホーストラストでは、アサヒライジングの事故後、馴らし期間を過ごすための新しい厩舎と起伏のない放牧地を整備中です。今後新たにホーストラストへ移動する馬は、十分な馴らし期間を経て、体力により放牧地を移動することになりますので今後の安心材料となります。

アサヒライジングだけでなく、昨年度にはたくさんの馬の別れがありました。終生繋養をするということはすべての馬を最終的には看取らなければならないのは必然ではありますが、短期間の間に相次いでフォスターホースが亡くなり、とても辛い一年でもありました。

【2021年度の永眠馬】

馬名	享年(満年齢)	没年月日	死亡理由
ツクバアズマオー	10歳	2021年11月23日	疝痛
キョウエイボーガン	33歳	2022年1月1日	起立不全による安楽死
バンダムテスコ	4歳	2022年1月6日	事故による腹部損傷に伴う安楽死
アサヒライジング	18歳	2022年1月23日	骨折による安楽死
エイシムルーデンス	25歳	2022年2月24日	起立不全による安楽死
ハリマブライト	25歳	2022年3月18日	骨折に伴う安楽死



ツクバアズマオー



キョウエイボーガン



バンダムテスコ



ツクバアズマオー



キョウエイボーガン



ハリマブライト

会員の皆様には亡くなった馬たちを支えていただきましたこと、また、預託先の皆様には、献身的な介護や看取りをしていただきましましたことをここに改めて御礼申し上げます。最後は安楽死になった馬たちは、最後の処置をしていただく前に十分な麻酔剤の投与をお願いしています。旅立つときには骨折等の痛みからも解放され、穏やかな表情で旅立っています。亡くなった馬たちについては近況報告集やアルバムに生きた証として記録を残し、FP会員だった皆様に遺髪(希望者された方のみ)とともにお送りします。

既にご紹介した新規の受け入れ馬、物故馬のほか、元気に過ごしているフォスタホースは、北海道に繋養中の馬では、渡辺牧場にナイスネイチャ(34歳)とナイスゴールド(24歳)、本桐牧場にタイキフォーチュン(29歳)、沖田牧場にエアリカコ(23歳)、ノーザンレイクにタイキシャトル(28歳)とメイショウドトウ(26歳)がいます。ナイスネイチャは世間のナイスネイチャ・バースデッドネーションやウマ娘人気はどこ吹く風で穏やかに過ごしています。ナイスゴールドは、蹄葉炎の痛みの緩和を試みながら大好きなマキヒメと一緒に放牧を楽しんでいます。タイキフォーチュンは歯が悪いですが餌を工夫していただき良い状態を保っています。エアリカコは、子宮の汚れが認められたため、診療所で子宮洗浄を受けました。一時は痩せてしまいましたが、少しずつ体が戻っています。タイキシャトルは何度か疝痛を起こし、最近では風邪症状により熱発がありました。年齢もだいぶ高くなり、慎重にケアをしていただいています。メイショウドトウは、穏やかな性格や牧場のアイドル猫のメトとの交流を楽しんでいます。以前から北海道で繋養中の馬はすべて20代以上で、どの馬も管理に注意が必要な領域に入っています。

群馬県の乗馬クラブアリスでは、響輝(競走名ロードシンフォニー、19歳)は訪れる会員の皆様のレッスンやお手入れに活躍しています。千葉では、コアレスピューマ(18歳)が乗馬として成長しています。ルックトゥワイス(9歳)は、乗馬としてはまだまだですが、愛嬌のあるところやステイゴールド産駒らしいところが愛されています。新しく加わったクレスコグランドは性格もよく、開催を見合わせている「フォスターホースと過ごす日」が再開されたら人気者になることでしょう。

現在乗ることのできるフォスターホースは、響輝とコアレスピューマのみですが、レッスンや騎乗に関しては受益者負担をお願いし、乗馬クラブの収入としています。

30歳以上の馬には引退馬協会独自の制度として、預託料とは別に高齢馬飼養管理手当(月額3万円)を支給しています。2021年度の対象馬は、ナイスネイチャと、亡くなったキョウエイボーガンでした。また、傷病管理は契約書上では預託料の範囲で牧場側に行っていただくことになっていますが、エイシムルーデンスのように、高齢馬管理手当の対象にはならなくても、大変な看護が必要だったことを考え、亡くなったあとではありますが、必要に応じて傷病看護手当(月額1万円~3万円)を支給することが、5月の臨時理事会で決定しました。これは毎月決まって支給するものではありませんが、治療が長期間にわたって行われた場合、必要な馬に必要な期間、年齢に関わらず都度検討

し支給します。

引退馬協会では馬の QOL(Quality of Life=生活の質)を高めるための努力をしています。そのひとつが、サプリメントです。整腸作用や免疫力アップ、蹄葉炎に効果のあるもの、グルコサミンなど、必要に応じて与えています。飼料費にはもちろん、人参、青草、リンゴなどの馬のおやつも含まれますが、その多くは、このような特殊飼料代となっています。効果が感じられたものについては引退馬協会を通じて預託先間で共有し、取り入れるようにしています。

また、医療についても獣医師や同じ症例の経験者から情報を集め、積極的に治療にも取り組んでいます。高齢馬の医療に関する情報が少ない中、情報が蓄積することにより、馬の獣医療向上につながればと考えています。

蹄の管理が難しい馬では、蹄葉炎のダノンシャークやナイスゴールドがいます。特殊装蹄には費用がかかりますが、痛みの緩和に大変効果があります。特に接着剤のエクイロックを使った装蹄代は高価ですが、蹄に釘を打てない状態の馬に使用します。ダノンシャークやナイスゴールドに取り入れています。いつまで必要かはわかりませんが、2022 年ではしっかり予算として組み入れる予定です。

③ FH に関わる情報発信と会員向け「FH リポート」の発行

FH に関わる情報発信として、FH リポートを、2021 年 6 月、8 月、9 月、11 月、12 月、2022 年 2 月、3 月の 7 回 FP 会員に郵送及び PDF 版(FP 会員及びメール配信を希望される他の会員種別の方を含む)で発行しました。会のホームページ内の近況報告ブログと Facebook, Twitter を連動させて、随時、各 FH の近況報告を発信することも引き続き行っています。

④ FH カレンダー制作販売

「2022年 FH カレンダー」は 2,300 部制作しました。FH が増えたことから、4 ページ増やしてグラビアページを追加し 36 ページとなりました。掲載したフォスターホース写真は、印刷間に引き取りが決まったナイスネイチャ・33 歳のバースデードネーションで引き取った馬をのぞき、プロカメラマンの朝内大助氏が撮影し、好評をいただきました。

例年どおり FP 会員に会員特典として贈呈したほか、2022 年 10 月から一部 1,000 円で販売したところ、年内に完売しました。

2021 年度の事業では、2023 年のカレンダーまで撮影が終了しました。

カレンダーの売上は啓発事業収益に含まれています。また、無償配布分と収益事業の売上分の経費管理のため、税務申告の都合上かかった費用の 50%のみカレンダーの経費とし、残りはプレゼント分のため「会員制度」として経費を計上しています。

⑤ 被災馬 FH 預託

東日本大震災で被災したコッチャン(トーセンクレイジー、15歳)、ハーモニイトセチャン(年齢不詳)、ハーモニイフラ(年齢不詳)を鹿児島島のホーストラストに、おにくん(ナイキプラネット、16歳)を福島県南相馬市の厩舎みちくさに被災馬FHとして預託しています。コッチャンは脚への負担を少なくするための運動制限を受け、小さなパドックで過ごしています。イトセチャンと、フラはそれぞれ仲良しのパートナーを見つけ、穏やかに過ごしています。コテツは元気はつらつです。

被災馬FHの預託にかかる経費は、2014年度までは被災馬支援基金から支出していましたが、基金の残高が減少したため、2015年度からは保証金や馬運代など一部の経費を除きフォスターペアレント事業として、被災馬FP会員からの会費を中心に支出しています。また、被災馬コテツの会の解散に伴い、2021年5月にコテツ(競走名:ルージュビクトリー、15歳)を被災馬フォスターホースとして受け入れましたが、すべての支払いが完了したのちの被災馬コテツの会の会計残高【1,206,822円】はすべて引退馬協会に寄付し、コテツの預託料等に充てていました。年度内の残金【632,785円】については「コテツ基金」として管理し、2022年の活動においてもコテツのために使っていきます。

5)協賛及び後援事業

2021年度は、実施しませんでした。

6)上記5事業から派生するその他事業

① 被災馬支援活動

(1) 被災馬の見守り

東日本大震災から11年が経ち、見守っている馬たちも関わっている人も状況が変化してきています。ハーモニイセンターで飼料支援をしていたポニー2頭の飼料支援を行いました。見守り中の被災馬の数は変動がなく28頭となりました。

被災馬支援基金は被災馬の見守り費用や引き取り時の馬運代や保証金、緊急の支援金等に使います。残高は指定正味財産として管理しています。コテツの引き取りについては、預託先に変更がないため、引き取りの際に馬運代や保証金は発生しておりません。

(2) 被災馬情報発信

被災馬の異動があったときにはHPやSNSで情報を発信しています。

② 「次の馬生」支援活動

(1) ハッピーライフカバー配布

引退後に引き取りたいと思っている馬を行方不明にしないため、気にかけている馬の健康手帳につけるカバーです。千葉を經由して譲渡する馬については、カバーを付けて送り出していますが、

カバーは簡単にはがせてしまえるため、次年度はシールを制作し健康手帳に貼付していただく予定です。

② 健康手帳貼り付けシールの作成

実施しませんでした。

③ 協会からの譲渡馬見守り

かつて再就職支援プログラム等で引退馬協会が譲渡した馬の健康診断のため専門家を派遣して順次健康診断を実施しています。必要に応じてマッサージや飼養相談もおこなっています。再就職支援の譲渡馬に対してJRAの奨励金から医療費助成を新設し、整歯代等を助成しています。

④ RRC 関連

「RRC-引退馬競走杯」は、全国乗馬倶楽部振興協会が、引退競走馬のセカンドキャリアを支援するため、引退競走馬所有奨励競技会として開催しているレースです。今年は残念ながら会のイベントとして現地観戦することは叶いませんでしたが、引退した競走馬達が出走するレースとして今後も情報発信を行うと同時に、新型コロナウイルスの感染拡大が終息したらまたみなさんと応援観戦にも行ければと考えています。

⑤ 助成金対象の種牡馬・繁殖馬支援

32歳のバースデードネーションで引き取ったエイシブルーデンスの残金があったため、エイシブルーデンスに係る経費は引き続き、ドネーションの費用から支出し、不足分をFP事業より支出しました。ナイスネイチャ・33歳のバースデードネーションで受け入れた12頭(うち1頭死亡)はこちらの事業で預託料、飼料費、医療費、馬運代、保証金の経費を負担しました。引き続き2022年9月まで、こちらの経費とします。(新フォスターホース関連は「フォスターペアレント事業」に掲載しています。)

⑥ 引退馬連絡会

引退馬支援にJRAが舵を切ったことで、連絡会の役割も終了し、現在はホームページを運営するのみになっています。今後活動として継続していくかは模索段階です。

⑦ 根岸競馬場跡保存活動と協働による啓発活動

日本で最初に近代競馬が行われた、旧根岸競馬場に残る一等馬見所は建てられて100年近く経つ当時の面影を遺した建築物です。この貴重な建物を遺したいと2015年に引退馬協会と歴史的建造物とまちづくりの会が横浜市に保存の要望書を提出し、その後保存の為のイベントを続けていま



す。2021 年には、横浜市が保存を検討する事が出来る様になりました。また 2021 年は多くの方に知ってもらうために、東京タワーで写真展とコンサートを歴史的建造物とまちづくりの会、日本建築家協会 (JIA 神奈川)、横浜青年会議所文化財建造物所有者の会と共催で行いました。開催にあたってご協力いただいた皆様には心より御礼申し上げます。



根岸競馬場関連の資料とともに引退馬協会のパンフレットも配布しました。

その他の事業(営利事業)

2021年度は実施しませんでした。

2022年度に向けて

2021年度はバースデードネーションにより、予想をはるかに上回る入会やご寄付をいただき、少ないスタッフ体制での業務を余儀なくされました。新規の受け入れ馬が増え、引退馬ネットのサポートホース団体の立ち上げの希望も複数いただき、さらにはNPOの認定更新手続きもあることから、新規スタッフの採用、既存スタッフの待遇改善にも力を入れていく予定です。

また、二年間、新型コロナウイルスの影響で制限してきた活動も、収束傾向にあることから、今まで「馬と触れ合える機会が少なかった」と感じていた皆様にも、馬に会いに来ていただける一年、そのためにきっかけとなるような企画もしていきたいと考えています。人の動きも増えると考えられ、見学マナー等啓発活動も積極的に行って参ります。

た、ナイスネイチャの 33 歳、34 歳のバースデードネーションで集まったご寄付を責任もって活動で使っていくことが大事と考えています。フォスターホース達が穏やかな環境のもと、健全で高い Q.O.L を維持して生活していけるよう、最善を尽くしていく所存です。「馬のために」をモットーに、今取り組んでいるひとつ先の課題にも積極的に目を向けて参ります。引き続きご支援、ご協力をお願い申し上げます。